

寸言

住友精密工業株式会社
取締役 専務執行役員
濱田 克彦



「Proactive」を合言葉に

多くの方々には、弊社を「降着装置メーカー」とご認識いただいているのではないかと思います。降着装置以外では、会社のルーツとも言うべき戦前よりのプロペラ事業があり、ゼロ戦を初めとする戦時中のプロペラを現在の尼崎市の工場が開発・生産しております。今日は、この降着装置、プロペラの他に、以外にご存知でないかもしれない航空機エンジン用等の機器、具体的には熱制御機器（簡単に言うと熱交換器）の事業について、ご紹介させていただきます。

弊社の熱交換器はアルミ合金製が主体となっています。性能、コスト面ではこのアルミ合金製であることに優位性があります。1916年に弊社の前身会社が取組んだアルミニウム合金（ジュラルミン）の材料研究にこの事業のルーツがあります。戦後、降着装置分野に進出した後、第二の柱となる航空機用機器を模索する中、1956年にT-34練習機用エンジン・オイルクーラーの国産開発に成功したのが実際の事業の始まりです。

現在、熱制御機器としては、エンジンの潤滑油、燃料、ファンエアーの間での熱交換器、空調装置用の熱交換器、そして作動油を冷却する熱交換器の開発・生産を担っております。中でも、エンジンの熱制御システムでは、世界の民間エンジン市場で大きなシェアを頂戴し、2017年度の見通しでは、年間約4,000個の熱交換器をエンジン用に生産しています。

今日のこの事業規模に至ったのは、ここ十数年で獲得できた新規プロジェクトでの受注の成果です。例えば、B787用のTrent1000や、

A350XWB用のTrentXWBなどの機器が現在本格的な量産に移行しつつあります。こういった所謂大型機の他にもビジネスジェットエンジン用にもシェアを拡大してきております。

このように多数のプロジェクトでシェア拡大を実現できているのは、何故なのでしょう？一言で言ってしまえば、「顧客との良好な関係の維持・発展にたゆまぬ努力を重ねてまいりました」となるわけですが、是非とも「Proactive」という私自身が最重要視しているキーワードをご紹介します。

お客様方から定期的に頂いている四半期毎の「通知表（スコアカード）」がごございます。科目は、マネージメント（M）、技術開発（T）と所謂QCDを合わせた5科目です。学生時代を例にとってみると、大学受験までは受験に合格するための活動=受験勉強という、どちらかと言えば「Reactive」な姿勢で乗り切ることが可能でしょうが、大学、あるいは大学院での姿勢は自らが課題を決めて解決するという「Proactive」な取組みが必須ではないでしょうか。品質不良や納期遅延で、実際にお客様にご迷惑をかけていなければ良しとする。これは学生時代の通知表に例えれば「5」なら良しとするようなもの。不良や遅延が起こらない仕組みにまで仕上げる、5年後、10年後に求められる技術を見極めて実現させる。

企業としては当然の姿勢ではありますが、「Proactive」を合言葉に、日本の航空宇宙産業の発展に寄与し、お客様、そして社会に魅力ある存在でありたいと常に考えております。